

平成28年度 佐賀県学習状況調査 <5年生国語>

小城市立小中一貫校
芦刈観瀾校 小学部

【全体の概要】

- 全体の正答率では、県平均をやや上回った。
- 到達度別平均正答率では、「十分達成」は県平均を上回り、「要努力」は県平均を下回った。
- 観点別正答率では、「話す・聞く」「書くこと」は県平均とほぼ同じである。「知識・理解・技能」は県平均をやや上回った。「読むこと」は県平均を大きく上回った。
- 無解答率が県平均より下回った。

	分析の結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
話すこと・聞くこと	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発表するのに必要な事柄を、取材しまとめる力が弱い。 ● 相手や目的に応じて理由を挙げながら筋道を立てて話すことを苦手としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「スピーチタイム」や「すくすくタイム」に、話し方のスキルを学ぶ活動を取り入れる。 ・ 国語科に限らず、話し合い活動の場を意図的に仕組み、その中で自分の考えや意見に理由や根拠を挙げながら話す機会を多く取り入れる。
書くこと	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすることを苦手としている。 ● メモを基に、字数が制限された中で、書くことの内容を明確にして書くことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝聞や推論、理由などが分かる文末表現や常体か敬体に合わせた文末表現を意識して書くことに慣れさせる。 ・ 文字数指定や書き出し指定、キーワード指定など、いろいろな条件付き作文を書く活動を取り入れる。
読むこと	<p>正答率は県平均を大きく上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 詩や物語などの描写を捉えて、想像力を働かせながら読むことを苦手としている。 ● 目的に応じて、中心となる語を捉える力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読書タイム」を活用しながら、読書を推進し、いろいろなジャンルの文章に慣れさせる。 ・ 「すくすくタイム」の中で、多くの文章に触れ、問題を解く機会を増やす。 ・ 内容の中心を捉えたり段落相互の関係を考えたりする活動を多く取り入れる。
知識・理解・技能 言語に関する	<p>正答率は県平均をやや上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国語辞典の使い方が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意味調べの際に、検索の仕方や語句の順序などを確認し、指導する。

平成28年度 佐賀県学習状況調査 <5年生算数>

小城市立小中一貫校
芦刈観瀾校 小学部

【全体の概要】

- 全体の正答率は、県平均を大きく上回った。
- 「十分達成」の割合は、県平均を大きく上回った。
- 観点別正答率は、県正答率と比べ「数学的な考え方」「技能」「知識・理解」とともに、大きく上回った。
- 後半の問題に無解答者が見られた。

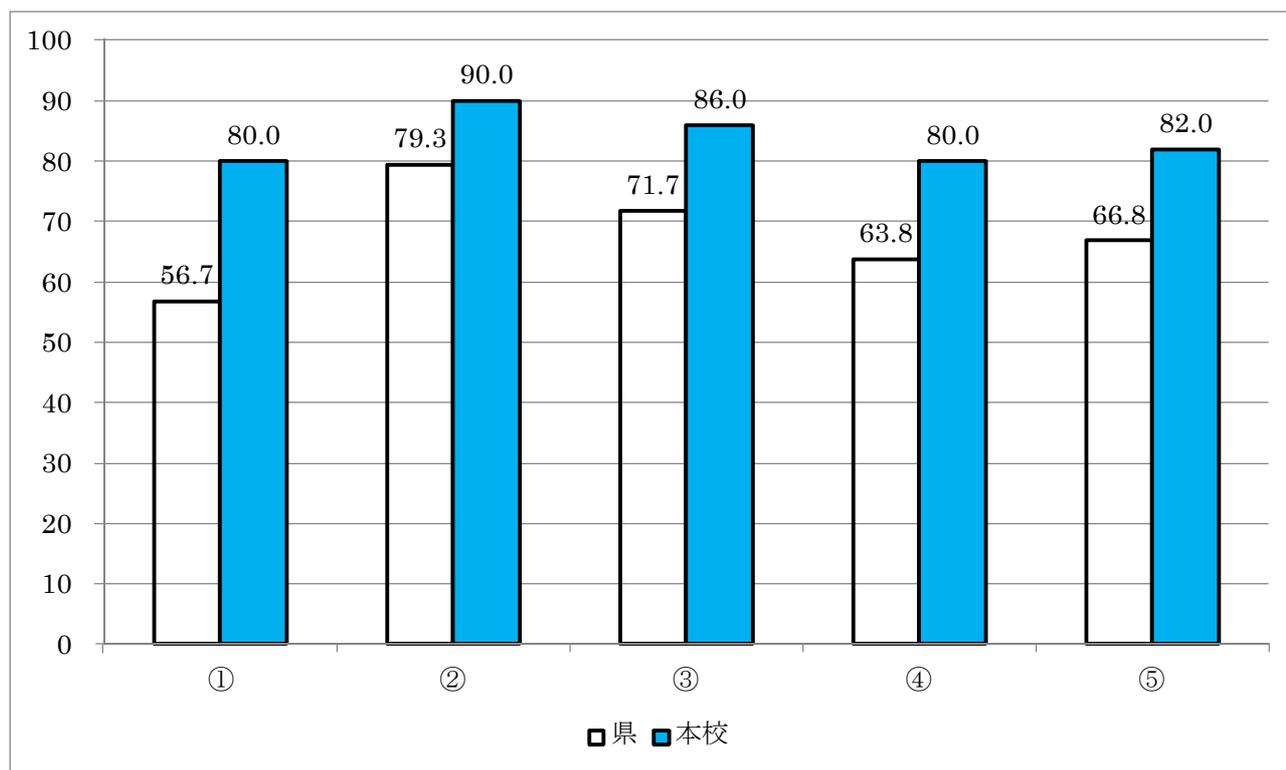
	分析の結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
数学的な考え方	<p>正答率は県平均を大きく上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表から答えを推測する問題や複合図形の面積を求める問題の正答率が県正答率を大きく上回った。 ● 「活用」に関する問題では、県正答率を大きく上回っているものの、県が示している「おおむね達成」に届いていないものが多かった。特に、後半の問題に無解答者が多く見られ、時間が足りなかったことが推測される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章問題の題意を読み取れずに、間違えたり、時間がかかり過ぎたりしている児童が多いので、問題に取り組む際に短いセンテンスに分け、分かっている数字や問われている部分に印をつけて読み解くように指導する。
数量や図形についての技能	<p>正答率は県平均を大きく上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 整数・分数の計算や計算のきまり、表の読み取り等の正答率は、県が示す「十分達成」を大きく上回った。 ● 分度器の使い方で、180度を超える角を求める問題が「要努力」となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小数のかけ算や折れ線グラフの読み取りなど、ケアレスミスと思われる問題がいくつか見られた。普段から、丁寧に筆算をさせたり練習問題に取り組みせたりする。
数量や図形の知識理解	<p>正答率は県平均を大きく上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 長さや面積の単位や直方体の展開図から垂直の関係になっている辺を読み取る問題では、県の正答率を大きく上回った。 ● 「1千万を30個集めた数」といった位取りや、平行四辺形の書き方を求める問題の正答率が「おおむね達成」に到達していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分かったつもりでいる算数用語の意味や基礎的内容をしっかり理解できるように、授業の中で「説明できるようになること」を意識して指導する。 ・ どの単元においても、知識を定着させるために定期的に復習を取り入れる。

平成28年度県学習状況調査結果分析・対策 5年

〔意識調査〕

【数値が特に高かった項目】

①	学校の授業の復習をしている。 * 「している (46.0)」「どちらかといえばしている (34.0)」と答えた児童の割合
②	社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。 * 「当てはまる (52.0)」「どちらかといえばあてはまる (38.0)」と答えた児童の割合
③	理科の授業で学習したことを、普段の生活に生かせないか考えたり、学習したことが活かされているものを、身の回りから見つけたりしている。 * 「当てはまる (44.0)」「どちらかといえばあてはまる (42.0)」と答えた児童の割合
④	自分で計画を立てて勉強をしている。 * 「している (44.0)」「どちらかといえばしている (36.0)」と答えた児童の割合
⑤	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 * 「当てはまる (42.0)」「どちらかといえばあてはまる (40.0)」と答えた児童の割合

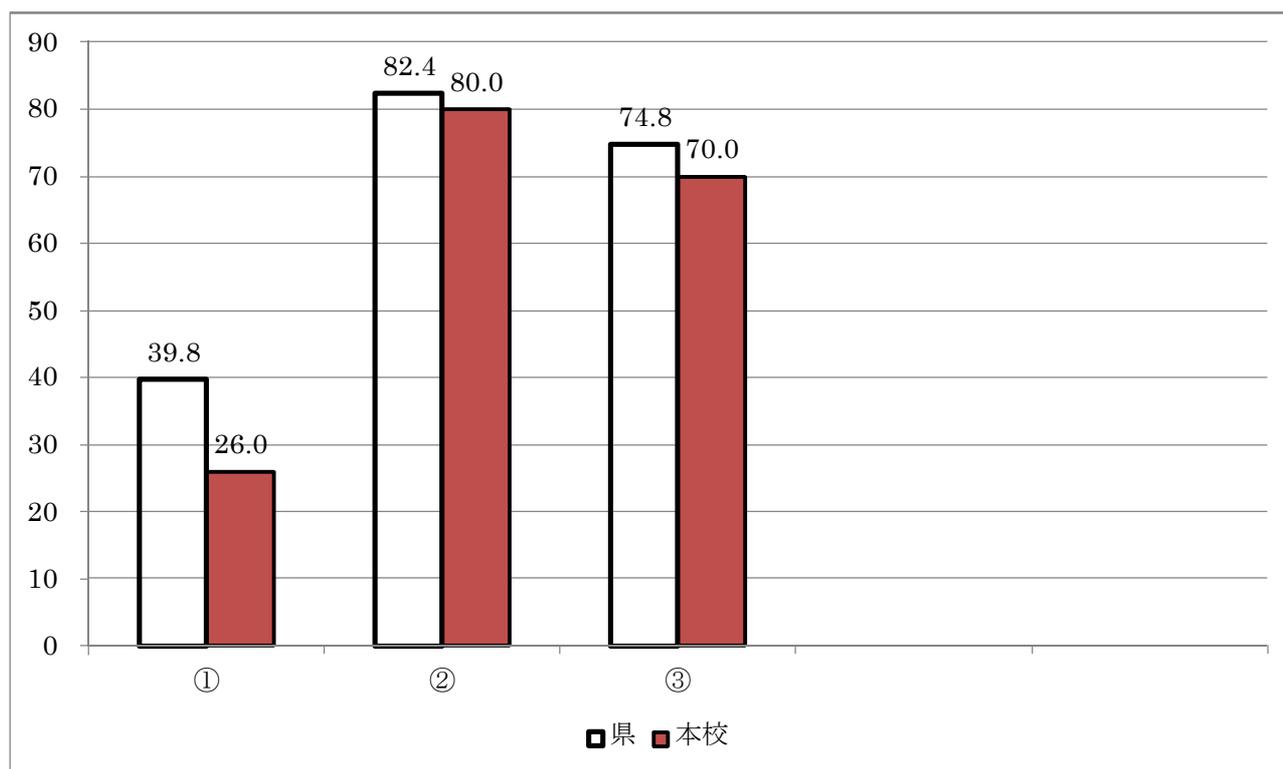


分析と今後の取り組み

- 宿題を中心とした家庭学習で復習がしっかりできている。特に自主学習では、授業で学習したことをもとに計画的に取り組んでいると考えられる。(①④)
- 学習のめあてを理解し、目的をもって学習活動に取り組んでいる。また、課題解決学習が授業の中心となっていて、児童に浸透していると考えられる。(②)
- 「総合的な学習の時間」は、課題を設定しそれを調べていく活動であることが児童に浸透しており、積極的に取り組んでいると考えられる。(⑤)
- 多くの教科でコミュニケーション活動を取り入れた学習をしていることが、さまざまな教科でも生かされていると考えられる。(②③)

【数値が特に低かった項目】

①	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思う。 *「そう思わない (4.0)」「どちらかといえばそう思わない (22.0)」と答えた児童の割合
②	読書は好きだ。 *「あてはまる (54.0)」「どちらかといえばあてはまる (26.0)」と答えた児童の割合
③	今住んでいる地域の行事に参加している。 *「している (36.0)」「どちらかといえばしている (34.0)」と答えた児童の割合



分析と今後の取り組み

- ・ コミュニケーション活動を取り入れた活動を多くの教科で取り入れており、考えを説明したり書いたりする機会は多く与えられている。しかし、よりよいものを求めるあまり、全体的に児童にとっては難しいと感じているようである。具体的な基準を示し、どの児童にも達成感を味わわせられるような工夫が必要であると考えられる。(①)
- ・ 「読書は好きだ。」という質問に対する結果は、県平均とほぼ同じであった。読書への関心を高めるために、図書委員会が主催するイベントや読み聞かせをきっかけに、興味を持たせたい。(②)
- ・ 社会体育等で忙しいからか、地域行事への参加が低い。学校と地域のつながりを教えることで日頃の地域の方々との協力を理解し、地域への貢献意識を高めさせる必要があると考える。(③)